

三八六八番

沖行くやおきゆ 赤ら小舟にあかをぶね つと遣らばや けだし人見ひとみ
て 開き見むかもひらみ

三八六九番

大舟におほぶね 小舟引き添えをぶねひそ 潜くともかづ 志賀の荒雄にしかあらを
潜き逢はめやもかづあ

三八七〇番

紫の粉漉の海にむらさきこがたうみ 潜く鳥かづとり 玉潜き出ばたまかづで 我がわが
玉にせむたま

三八七一番

角島の瀬戸のわかめはつのしませと 人のむたひと 荒かりしかあらか
ど 我とは和海藻われはにきめ